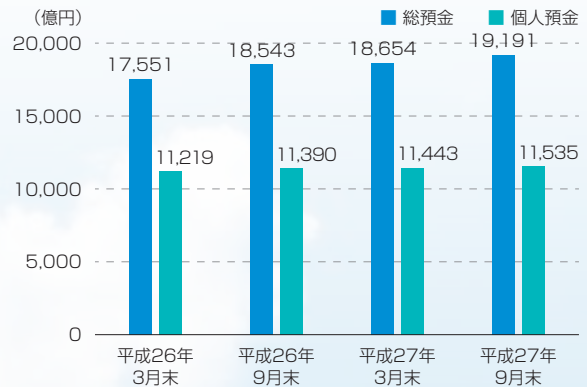


# 業績ハイライト

## 預金

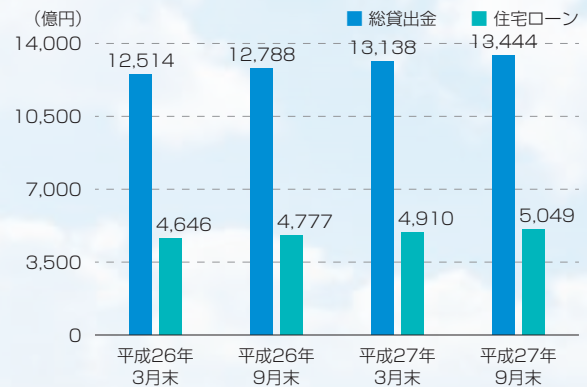
平成27年度中間期末の総預金残高は、年金、給与振込等の営業強化により、個人預金が順調に増加したほか、取引先への反復訪問継続をはじめとするSR(ストロングリレーション)活動により関係強化に努めた結果、法人預金も順調に増加しました。

全体では、前年度末比536億円増加の1兆9,191億円となりました。



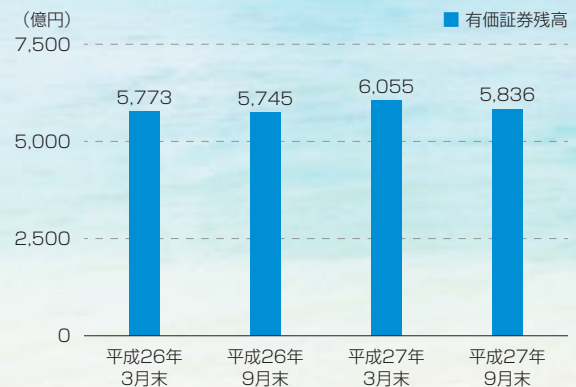
## 貸出金

住宅ローンやアパートローンが増加したほか、SR(ストロングリレーション)活動により取引先との関係強化に努め、事業性貸出も順調に増加しました。全体では、前年度末比305億円増加の1兆3,444億円となりました。



## 有価証券

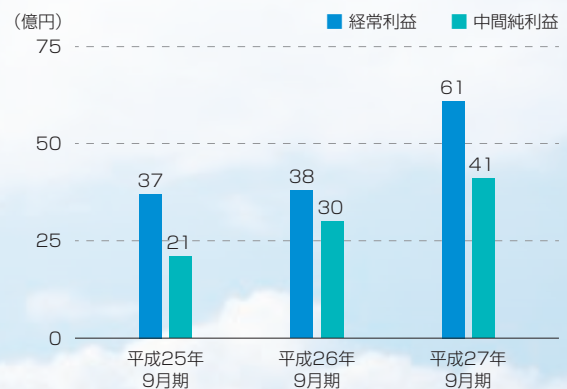
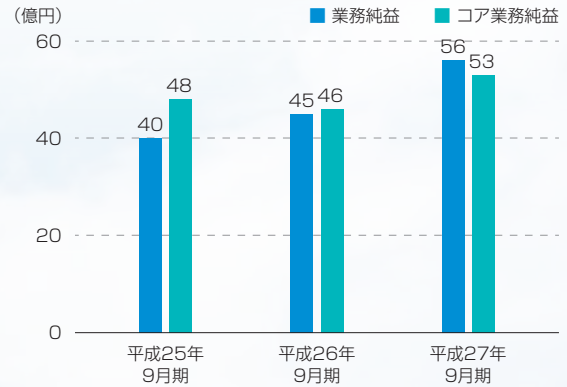
国債、地方債など公共債を中心に市場動向を睨みながら資金の効率的運用と安定収益の確保に努めた結果、有価証券残高は前年度末比218億円減少の5,836億円となりました。



## 損益状況

経常収益は、貸出金利息は減少したものの、有価証券利息配当金、役務取引等収益及び株式等売買益の増加などにより、前年同期比15億円増加の195億円となりました。

この結果、経常利益は、コア業務純益及び有価証券関係損益の増加に加え、与信費用の減少などにより、前年同期比23億円増加の61億円となり、最終の中間純利益は前年同期比10億円増加の41億円となりました。



## 自己資本比率

銀行経営の健全性・安全性を測る上で重要な指標のひとつである自己資本比率は、平成27年9月末において11.16%となっており、国内基準の4%を大きく上回っています。



## 用語解説

### 【自己資本比率】

総資産に占める自己資本の割合で、銀行の健全性を示す重要な指標の一つであり、比率が高いほど安定した経営といえます。なお、海外に営業拠点を持つ銀行は8%以上(国際基準)、当行のように海外に営業拠点をもたない銀行は4%以上(国内基準)であることが求められています。